

小学校 4 年生 国語科学習指導案

授業者：前田 睦子
場 所：校舎 2 階 教室

1 単元・題材名

段落どうしの関係をとらえ、説明の仕方について考えよう。

教材：アップとルーズで伝える

2 単元・題材について

<指導内容～学習指導要領より>

C読む-(1)イエ -(2)オ

- ・目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見の関係を考え、文章を読むこと。
- ・目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。
- ・必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。
- 伝国(1)イ(ク)
- ・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす

この単元では、写真と文章を対応させて読みながら、対比的な段落関係をつかみ、それを含んだ文章全体の構成を捉えることを行う。

本教材は、私たちがよく目にしているメディアであるテレビの映像技法を中心の述べたものである。私たちはテレビを通して、さまざまな情報を取り入れているが、テレビの流す情報がそのまま真実だと思いこんでしまうことも少なくない。今後、メディアからの影響を受けるであろう児童に、メディアからの情報は、一定の価値判断、意図に基づいて撰捨選択されたものであることを読み取ることを通して、説明文中で対比して述べるという説明の工夫は、読み手にとって、より分かりやすく効果的であることに気付かせたい。

3 児童の実態

4 研究内容とのかかわり

(1) 本時身に付けさせたい思考力・判断力・表現力

<思考力>

それぞれの段落が全体でどのような役割を果たしているか考えながら読むことができる。

<判断力>

写真と対応した部分に注意して読み、「アップ」と「ルーズ」それぞれの特徴を整理することができる。

<表現力>

写真と対応した「アップ」と「ルーズ」の特徴を本文から引用し説明することができる。

(2) 個の力を高める指導・援助

→ 個の実態把握と個別の指導・援助のあり方

<児童生徒の学びの実態>

～個別実態把握カルテおよび指導計画上の累積記録より～>

<本時の意図的な指導・援助>

段落の関係を図式で理解させ、対比的な説明の工夫に気付かせる。なぜ、そのように説明したのかを考えさせることで、対比して説明することのよさに気付くことができるようにする。

(3) 「対話の目的」「めざす対話」の明確化

→ 目的や必然性のある対話活動の設定

<本時の対話の目的>

- ・段落の相互関係をつかみ、筆者の説明の工夫に気付くことができるようにする。

<本時めざす対話の姿>

- ・段落の相互関係を理解し、筆者の説明の工夫を考えることができる。

(4) 「乗り越える場」の意図的な位置付けと効果的な深めの発問

→ 乗り越える場の位置と教科の本質にせまる質の高い深めの発問の吟味

<本時願う学びの深まりや広がり>

テレビがアップとルーズを使い分けていることを、それぞれの長所や短所を対比しながら述べることで、理由がわかりやすくなっていることに気付く。

<本時の深めの発問>

筆者は、読み手に分かりやすく説明するためにどんな工夫をしていますか？

(5) 自己変容(伸び)を自覚できる評価の工夫

→ 教科の特性に応じた評価方法の工夫

<評価規準>

写真と文章を対応させながら読み、第四段落から第六段落までの段落相互関係をつかんで、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしている。

<自己変容を自覚できる評価>

授業の終末に、「今日学んだこと」「自分の学び方のよさ」を視点に、自己評価の場を位置付ける。

5 題材指導計画

(1) 題材で付けたい力

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
写真と文章を対応させて、説明文に興味をもって読もうとしている。	- それぞれの段落の役割を、本文の内容から理解している。(1)イ - 写真と本文の対応関係を理解している。(1)エ	指示語や接続語が、文や段落の関係を示す手がかりになることを理解している。(1)イ(ク)

(2) 題材指導計画 「アップとルーズで伝える 全8時間」

	ねらい	おもな学習活動	評価規準	意図的な指導・援助	授業後の実態 (カルテ追加記入事項)
第一次 1	本文を読み、説明の仕方の工夫に関心をもち、学習の見通しをもつことができる。	- p 3 4 と p 3 5 の写真を見て、気付くことを話し合う。 - 本文を読む。 - 学習の計画を立てる。	説明文の書き方に関心をもち、本文の特徴をみつけようとしている。	- 身近な写真を見せ、アップとルーズの違いに着目し特徴見つけをする。 - 既習の説明文と比べ、違いがあるか問い、説明の仕方の特徴について学ぶ学習計画を立てる。	
2	写真と文章の対応関係を読み取り、第三段落までの相互関係をつかむことができる。	- p 4 2 言葉の学習をする。 - 筆者が「何を」「どのように」説明しているか考える。 - 段落の関係を見つめる。	第一段落～第三段落の写真と文章の対応や段落相互の関係を理解している。	- 写真と文章の対応を考えさせる。 - 指示語や接続語に着目させ、段落相互の関係を図に示して、整理する。	
第二次 3 (本時)	写真と文章の対応関係を読み取り、第四段落から第六段落までの段落相互関係をつかむことができる。	- 本時の範囲を音読し、写真と文章の対応関係を確認する。 - それぞれの読み取りをまとめる。 - 段落の関係を考える。	写真と文章を対応させながら読み、第四段落から第六段落までの段落相互関係をつかんで、筆者の説明のしかたの工夫を見つめようとしている。	- 段落の関係を図式で理解させ対比的な説明の工夫に気付かせる。 - なぜ、そのように説明したのかを考えさせることで、対比して説明することのよさに気付かせる。	
4 ・ 5	第七段落と八段落の役割を考え、文章全体の内容と段落の役割を考えることができる。	- 第七・八段落の音読をする。 - 内容と他の段落とどんな関係になっているか考える。 - 全文の段落相互関係のつながりを整理して文章の組み立て方を確かめる。	段落相互の関係を確かめ、文章全体の構成をつかんでいる。	- 第七段落と八段落の役割を考えながら要点をまとめる。 - 文章全体の構成をつかむために、三つのまとまりに分けて考える。	
6	本文の説明の仕方の工夫をまとめることができる。	- 全文を読む。 - 説明のよさや説明の仕方の工夫をまとめノートに書く。	写真と文章の対比関係や段落相互の関係、全体の構成について説明の工夫をまとめている。	改めてノートに書くことで、学習の内容をどのように学び取ったか確認する。	
第三次 7 ・ 8	身の周りのものの「アップ」と「ルーズ」が使われている例を見つけ、説明するうえでのよさを考えることができる。	- 自分で集めたもののアップとルーズの使われ方とよさについて考える。 - p 4 3 のコラムの写真を見て、題名をつけ、言葉と印象について考える。 - 単元の学習の振り返りをする。	テレビや新聞などからアップとルーズの使われ方を見つけ、意図やその良さを考えている。	- オリンピックの新聞記事やテレビの映像などを提示しながら自分の考えを伝えるようにする。 - コラムの写真を見ながらつけた題名の根拠を示して考えを述べさせる。	

6 本時のねらい

第四段落から第六段落までの写真と文章の対応関係や内容を読み取ることを通して、段落の相互関係に気付き、段落の役割を説明することができる。

7 本時の展開（3 / 8）

週	学習活動	指導・援助の手立て、留意点
つかむ	1 導入 ・第四段落～第六段落までの音読をする。 ・ノートで計画表を確認し、本時のめあてを記入する。 2 課題設定 第四段落～第六段落までの内容を読み取り、段落の相互関係や筆者の説明の工夫を考えよう。	【課題意識をもたせる手立て】 第1段落～第3段落の、段落相互の関係を振り返ることを通して、本時も相互関係に着目して読み取る意識を高める。
考える	3 見通し ○学習の流れと、読み取りの視点を確認する。 【読み取りの視点】 ・筆者は、何をどのように説明しているのか ・筆者は、なぜこのように説明したのか ・筆者の説明は、分かりやすいか 4 個人追究 ○第四段落から第六段落まで、筆者は何をどのように説明しているか読み取り、段落の相互関係を考える。 ・第四段落から第六段落のキーワードを見つけノートにまとめる。 ・ホワイトボードに段落ごとの内容を短い言葉で表す。 ・段落の相互関係を考え、なぜそのように説明したのか考える。	<児童生徒の学びの実態> ～個別実態把握カルテおよび指導計画上の累積記録より～> <本時の意図的な指導・援助> 段落の関係を図式で理解させ、対比的な説明の工夫に気付かせる。なぜ、そのように説明したのかを考えさせることで、対比して説明することのよさに気付くことができるようにする。
乗り越える	5 全体追究（対話） ○段落相互の関係とその意図や役割及び効果などを、整理しながら深める T:個人追究した内容を発表しよう。 S:第四段落では、「アップ」で撮ると、細かい部分の様子がよく分かるが、走っている選手以外の写されていない多くの部分のことは分からない、と説明しています。この段落は、アップの長所と短所が説明されています。 S:第五段落では、「ルーズ」で撮ると、広い範囲の様子がよく分かるが、各選手の顔つきや視線、それから感じ取れる気持ちまでは、なかなか分からないと説明しています。この段落はルーズの長所と短所が説明されています。 S:第六段落では、アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがあるので、目的に応じてアップとルーズを使い分けて放送していると説明されています。	<本時の対話の目的> ・段落の相互関係をつかみ、筆者の説明の工夫に気付くことができるようにする。 <本時めざす対話の姿> ・段落の相互関係を理解し、筆者の説明の工夫を考えることができる。
まとめる	T:筆者は、読み手に分かりやすく説明するためにどんな工夫をしていますか？ S:第四段落ではアップの、第五段落ではルーズの長所と短所を説明しています。それぞれの長所と短所を比べて違いをはっきりさせています。第六段落で、「このように」という言葉を使ってまとめているので分かりやすいと思います。 S: 比べて違いをはっきりさせることで、それぞれの長所と短所がとても分かりやすく説明されていると思います。 6 まとめ ○ノートに、第四段落～第六段落までの段落の相互関係まとめ、本時の学習の振り返りを書く。 第四段落と第五段落を対比させ、アップとルーズの長所や短所を説明している。対比させることによって分かりやすく説明することができる。 ・今日、個人追究で「何を」説明しているかは自分でまとめることができた。でも、「どのように」は自分一人では考えられなかったので次は「どのように」まで自分で考えられるようにしたいです。	<本時願う学びの深まりや広がり> テレビがアップとルーズを使い分けていることを、それぞれの長所や短所を対比しながら述べることで、理由がわかりやすくなっていることに気付く。 <本時の深めの発問> 筆者は、読み手に分かりやすく説明するためにどんな工夫をしていますか？ <評価規準> 写真と文章を対応させながら読み、第四段落から第六段落までの段落相互関係をつかんで、筆者の説明のしかたの工夫を見つけようとしている。 <自己変容を自覚できる評価> 授業の終末に、「今日学んだこと」「自分の学び方のよさ」を視点に、自己評価する場を位置付ける。